

## 開院レポート：埼玉県立小児医療センター

埼玉県立小児医療センターは、1983年（昭和58年）の開設以来、県立小児専門病院として、質の高い小児医療並びに地域と連携した小児保健・発達の支援などを、病める子供目線で提供してきました。

しかし、昨今の小児医療の課題でもある、胎児から新生児、小児期から思春期、さらには若年成人期に至るまでの、シームレスかつ先進的な高度医療の提供は、旧病院（さいたま市岩槻区）の限られた設備では難しくなりつつありました。また、建物自体の老朽化も進み、耐震化が必要であると判断されたことから、この度、旧病院を建替え、平成28年12月27日に急性期小児専門病院として、さいたま市都心に移転・新築オープンしました。

新病院は、小児救命救急センターや小児集中治療室（PICU）14床の新設による小児救命救急医療の強化、母体胎児集中治療室（MFICU）や新生児集中治療室（NICU）30床、新生児治療回復室（GCU）48床を有する総合周産期母子医療センターの開設、ゆとりある個室80床の整備、病院内に家族滞在施設（ドナルド・マクドナルド・ハウス）の整備、ハイブリッド手術室やリニアック装置の整備など、高度専門医療を提供する県立小児専門病院として相応しい機能を有しています。

また、救命救急センター機能や災害拠点病院機能を有するさいたま赤十字病院（632床）と隣接するという特徴を持ち、救命救急医療や母体・胎児・新生児のあらゆる疾患への対応における“連携”が期待されています。



《新病院の基本情報》

名称	埼玉県立小児医療センター
所在地	さいたま市中央区新都心 1-2
病床数	316 床
敷地面積	10,031.17 m <sup>2</sup>
延床面積	65,447.69 m <sup>2</sup>
階数	地下 1 階/地上 13 階
駐車台数	335 台
診療科	総合診療科、新生児科、代謝・内分泌科、腎臓科、感染免疫・アレルギー科、血液・腫瘍科、循環器科、神経科、遺伝科、精神科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科・リハビリテーション科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、麻酔科、放射線科、病理診断科、集中治療科、救急診療科、小児歯科
付加機能	ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたま、埼玉県立けやき特別支援学校、埼玉県発達障害総合支援センター、埼玉県総合医局機構地域医療教育センター、埼玉県立大学大学院サテライトキャンパス、埼玉県消防学校救命救急士養成課程、災害時被災者支援機能

《新病院の機能・コンセプト》

1. 総合周産期母子医療センターの開設

総合周産期母子医療センターは、MFICU や NICU を一定数以上備え、リスクの高い妊産婦や新生児を 24 時間体制で受け入れることが可能な施設です。産科と新生児科の機能を併せ持ち、妊娠・出産から新生児治療までを一貫して行うことができるため、低出生体重児や重度の疾患を持つ新生児にとっては、生まれた直後から手厚い治療を受けられるという大きなメリットがあります。

2. 小児救命救急センターの開設

小児救命救急センターは、診療科領域を問わず、全ての重篤な小児救急患者を 24 時間体制で受け入れます。高度救命救急センターであるさいたま赤十字病院とは、集中治療を要する小児患者の受け入れや、救急医療スタッフの教育・研修など、様々な場面で連携し、子どもから大人までカバーする高度な救急医療拠点の体制づくりに取り組みます。

3. 小児がん拠点病院の機能向上

当センターは、平成 25 年に小児がん拠点病院の指定を受け、様々な治療や研究に取り組んできま

した。現在、血液がんの患者数は全国一で、固形がんもほぼ全ての種類に対応しています。これまでの豊富な経験と研究結果を基に、小児がん治療に取り組む他の医療機関とも連携して、さらなる診療レベルの向上を目指します。

#### 4. 小児感染症への対応

これまで県内に不足していた、伝染性疾患の小児患者を受け入れる本格的な設備を有しています。病棟の専用エリアに個室 18 室を設置し、外来や救急等の動線も一般患者とは分離し、感染拡大を防止する万全の体制を整えています。

#### 5. 子どもの成長と発達に関する支援

当センターでは、医療の提供だけでなく、子どもの成長と発達に関する支援にも力を入れています。新病院では、保険発達部門を 3 階に設け、より充実した診療を提供できるよう体制を整備しています。

#### 6. 最新医療の導入

新病院では、内視鏡手術室の増設やハイブリッド手術室の新設、リニアック装置の更新、MRI (3.0T) の導入など、身体に優しく効果的な治療を提供することを目的に、最新医療の提供に努めています。

当社は、平成 24 年度から約 5 年間にわたり、新病院の整備計画支援業務に携わってきました。大きくは、以下の業務について、運営・物流・医療情報システム・医療機器の専門スタッフが、各自担当にあたり、支援してきました。

- ① 運営システム構築支援業務
- ② 物流管理 (SPD) システム構築支援業務
- ③ 医療機器等整備支援業務
- ④ 医療情報システム整備支援業務

本業務を遂行するにあたり、ご協力頂いた関係者の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。